

平成15年度自動車アセスメント実施要領(案)意見募集の結果について

・歩行者頭部保護性能試験について

歩行者保護試験の導入は、結構なことである。

(国土交通省の見解)

自動車事故による死傷者数のうち歩行者の占める割合は約7%となっていますが、死亡者数だけを取り上げてみると、歩行者の占める割合は約28%(2,456人)となっています。このことから、歩行者事故に対する保護対策の充実が自動車事故による死亡者数の減少につながるものと考えられ、これを促進する目的から、新たに自動車アセスメントにおいて歩行者保護性能試験を導入することとしたものです。

(注 数値は、平成13年の統計による)

歩行者の死亡原因の一つは、跳ね飛ばされた歩行者が、頭部を車両のAピラーにぶつかるためと考えられる。Aピラーやフロントガラスへの衝撃試験は含まれているか。

(国土交通省の見解)

歩行者保護性能試験は、子供や大人が実際に自動車のどの部分に衝突しているかを分析して行うこととしており、自動車のボンネットを始め、お問い合わせのAピラーや窓ガラスについても評価の対象とし実施することとしています。

なお、Aピラーや窓ガラスについては、技術開発の動向や試験実施技術の問題から、個々の自動車に衝撃試験を行わず、事前の調査研究をもとに評価することとしています。

・チャイルドシート性能評価試験について

腹部圧迫に関する評価として、面圧計を使った測定による評価を行うとの事であるが、ダミーの腹部構造と人体の腹部特性との相関関係は確認されているか。また、ダミー人形は3次元物体であるが、腹部に巻いた面圧計によって測定された数値と、実際の腹部にかかる圧力との相関関係は確認されているか。

(国土交通省の見解)

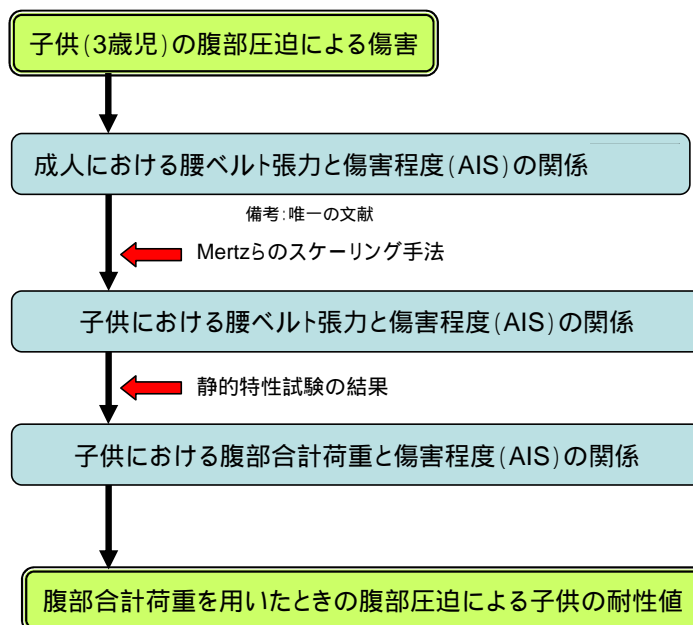
1 ダミーの腹部構造と人体の腹部特性との相関関係について。

子供の腹部特性については報告例が無く，人体に忠実な腹部特性を持った子供ダミーが存在しません．また，ダミーの開発については多くの知見を必要とすることからそのようなダミーの開発には長時間を要します．このような状況から，現時点で採りうる最良の方法としてハイブリッド 3 歳児ダミーを使用することにしました．なお、腹部の耐性値については，報告されている成人の腹部耐性に関して成人と子供の体格差などを基にスケールダウンして子供の腹部耐性として使用することにしました．

2 腹部に巻いた面圧計によって測定された数値と、実際の腹部にかかる圧力との相関関係について

面圧計は，厚さ 0.1mm のシート状になっています．ダミーの腹部の変形を妨げることなく，センサー自身も変形できるものです．評価の指標には，ダミー腹部範囲において面圧計の各セル(1cm × 1cm)にかかっている荷重を積算した荷重値を使用します．

【耐性値の検討フロー】



．自動車の衝突安全性能評価試験について

後方から追突された場合の試験をおこなうべきでないか。

(国土交通省の見解)

乗用車の乗員の死亡事故における衝突の形態は、前面衝突が約 66%、側面衝突が約 30%、後面衝突が約 4%となっています。

この事から、自動車アセスメントにおける衝突試験については、死者数を減少させるという観点から前面衝突及び側面衝突試験を行うこととしたもので、現在のところ自動車アセスメントの評価試験に後面衝突試験を加えることとしておりません。

なお、乗用車等が後方から追突された場合については、国の安全基準に基づき「衝突時等における燃料漏れ防止の技術基準」や「頭部後傾抑止装置の技術基準」により安全性が確認されていますが、今後も追突事故の発生に係る傷害の発生状況等を踏まえながら自動車アセスメントの全体計画の中で試験実施の可否等について検討することとしています。

(注 数値は、平成9年 交通事故総合分析センター調べ)